

北海道国際理解教育研究協議会 会報 第106号



# 国際理解

令和6年1月発行 北海道国際理解教育研究協議会 会長 小松 裕和



## 特集

第44回

北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会

全道大会を終えて（仮題）

十勝・帯広大会実行委員長

野中 利晃（帯広市立帯広小学校 校長）



- 第33回 全国海外子女教育国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会
- 第44回 北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会
- 第44回 十勝地区国際理解教育研究大会
- 第2回 帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会

## 感謝の気持ちを込めて

北海道大会実行委員長

野中利晃

(十勝地区国際理解教育研究会長)

11月1日(水)2日(木)、森の交流館・十勝、JICA北海道(帯広)、帯広市立大空学園義務教育学校を会場に本研究大会が4年ぶりに対面形式で開催され、成功裏に終わることができました。ご協力いただきました皆様に、次のとおり感謝の気持ちを申し上げ「会報106号」の巻頭言とさせていただきます。

<参集くださいました皆様へ>

参加者数の大小が、大会成功への大きな要素となることは言うまでもありません。国際理解教育に関心が高い教職員が多く集まれば、研究協議の質も深まりますし、関係者のモチベーションも高まります。今回、行事等が重なる校務ご多用の折にもかかわらず、全道各地より280名を超える皆様に参集いただきました。また、多くの皆様が閉会式まで残ってください、大会を最後まで盛り上げてくださいました。参加くださった皆様、ご配慮いただいた管理職の皆様にも心よりお礼申し上げます。

<全国海外子女教育国際理解教育研究協議会、北海道国際理解教育研究協議会の皆様へ>

全道大会が対面で開催されたのは、令和元年(2019年)の上川・旭川大会以来です。ただ、上川・旭川大会が全国大会としての開催であったため、全道大会単独の開催は、さらに平成30年(2018年)の後志大会までさかのぼることになります。資料やデータが不足する中、道協議会の小松裕和会長、井上博文事務局長におかれましては、前年度オンラインにて大会を開催された釧路地区の皆様とつないでいただくなど、多くのご助言を賜りました。また、夏の学習会の際に各地区の皆様からいただいたご意見も大変参考になりました。大会を全面的にご支援いただいた全海研の皆様にも感謝申し上げます。

<帯広市立大空学園義務教育学校の皆様へ>

「授業が良かった」は、実行委員会としてもっとも嬉しい感想です。大空学園義務教育学校の皆様が、本大会の5本の授業公開を一手に引き受けてくださいました。また、自校の校内研究を本会の研究と関連づける中で、本会の研究の意図を酌み取り、授業づくりに反映させてくださいました。大会運営や当日のアトラクションも含め、児童生徒の素晴らしい姿を見せていただくことができました。充実した大会を共に創り上げてくださった村松正仁校長先生を始め大空学園義務教育学校の皆様に、心より感謝申し上げます。

<十勝・帯広大会実行委員の皆様へ>

大会実行委員会は、合田真晃事務局長を中心に各部長が連携し、各部員が本大会を自分事として捉え、尽力していく。当に「自走する組織体」として、大会成功に向けて機能しました。授業づくりや会場づくり、関係機関との連携、広報活動、オンライン配信、参加費ゼロへの挑戦等、それぞれの部員がアイデアを持ち寄り、会議を重ね、日ごとに質の高い大会へと育てていくことができました。素晴らしいメンバーとともに大会運営できたことを大変嬉しく、誇りにも感じたところです。大会アドバイザーや副委員長の皆様の存在も、頼もしく心強く感じました。ありがとうございました。

<北海道教育委員会、帯広市教育委員会、JICA北海道・帯広、関係の機関の皆様へ>

結びとなりますが、授業づくりや研究の深化に向けてご指導、ご助言を賜りました北海道教育委員会、帯広市教育委員会、JICA北海道(帯広)、ご後援いただいた関係機関の皆様にも厚くお礼申し上げ、大会のバトンを次期開催地である胆振地区へとお渡します。

第33回 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会北海道ブロック大会

第44回 十勝地区国際理解教育研究大会

第2回 帯広市立大空学園義務教育学校公開研究会

## 第44回 北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会

大会主題 多様な世界に関わり続ける行動力を身に付けた児童生徒の育成

～世界と関わり何ができるかを考え、主体的に行動する学びの創造～

主催 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会  
北海道国際理解教育研究協議会

主管 十勝地区国際理解教育研究会

後援 文部科学省 公益財団法人海外子女教育振興財団 北海道教育委員会  
北海道小学校長会 北海道中学校長会 帯広市教育委員会  
十勝管内教育委員会連絡協議会 十勝教育研修センター 十勝小・中校長会  
帯広市校長会 公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部  
独立行政法人国際協力機構北海道国際センター (JICA 北海道・帯広)

1 期日 令和5年11月1日(水)～2日(木)

2 会場 帯広市立大空学園義務教育学校 森の交流館 JICA 北海道・帯広

3 協力校 帯広市立大空学園義務教育学校

4 日程

【1日目 11月1日(水) 会場：森の交流館】

13:00～13:30 受付

13:30～15:00 全道理事研修会・総会・研究担当者会議

15:15～16:00 JICA 北海道・帯広 見学

【2日目 11月2日(木) 会場：帯広市立大空学園義務教育学校】

9:00～ 受付

9:35～10:25 授業公開Ⅰ (3公開)

10:45～11:35 授業公開Ⅱ (4公開)

11:45～12:15 開会式

12:15～13:15 昼食・休憩 (大空学園吹奏楽部レセプション)

13:15～13:35 全体会

13:40～15:00 授業別分科会

15:10～15:30 閉会式



令和5年度の北海道国際理解教育研究大会が、11月1日（水）・2日（木）に森の交流館と帯広市立大空学園義務教育学校を会場に、11年ぶりに十勝・帯広で開催されました。

公開授業はYouTubeライブ配信とのハイブリット開催で、義務教育学校の特性を生かして1年生から9年生までの発達段階の違う魅力あふれる授業を1会場で6本公開しました。

## 研究大会1日目 理事総会・研修会

11月1日（水）はJICA北海道・帯広に隣接する森の交流館・十勝を会場に、令和5年度第1回北海道国際理解教育研究協議会理事総会・研修会が行われました。



小松 北海道協議会会長



野中 大会実行委員長



合田 事務局長



- 1 会長挨拶 北海道国際理解教育研究協議会 小松 裕和（札幌市立中沼小学校 校長）
- 2 開催地区会長挨拶 十勝地区国際理解教育研究会 野中 利晃（帯広市立帯広小学校 校長）

## 研究大会 2 日目

11月2日（木）は、帯広市立大空学園義務教育学校で研究大会が行われました。

### 授業公開 I ・ II

#### ① 第1学年 生活科

- ・ 授業者：松本 美佳 教諭、高島 瑠衣 教諭
- ・ 単元名：『むかしからのあそびをたのしもう』



1年生は、様々な国の遊びをその国の方々に直接教えてもらい、日本の遊びとの相違点を知る授業でした。元気いっぱい楽しみながら外国の遊びの文化を知る授業となりました。

#### ② 第4学年 総合的な学習の時間（国際理解）

- ・ 授業者：藤原 悠大 教諭
- ・ 単元名：『世界のごみ問題を考えよう』



4年生は、世界のごみ問題を学び自分たちにできることはないか考えました。食品ロス問題に児童から「おなかをすかせておいて、残さず食べる！」と斬新な意見が出され、先生は「月曜日からの給食が楽しみだ！その言葉忘れるなよ！」とニヤリと笑っていました。

### ③ 第5学年 国語科・総合的な学習の時間（国際理解）

- ・ 授業者：西村 弦 教諭、河瀬 結 教諭
- ・ 単元名：『大空学園 SDG s はじめの一步』



5年生では、SDG s に関する提案を学校内や家庭・地域に呼びかける取組を公開しました。ジェンダー平等、ごみ問題、食品ロス等についてデータをまとめ、お互いの取組を交流しました。

### ④ 第7学年 理科

- ・ 授業者：増田 美次郎 教諭
- ・ 単元名：『第1分野「光・音・力による現象」 第1章 光による現象』



7年生は、国によって虹の色の数が違うことをきっかけとし、光の屈折について学習を深めました。分光シートをつかって教室で虹を観察し、同じクラスの人たちの間でも虹をつくる色の数に違いがあることを知りました。多様性を尊重する心を育てる素晴らしい授業となりました。

### ◎ 第8学年 総合的な学習の時間

- 授業者：上野 嗣弥 教諭、神下 朋実 教諭、尾崎 弥生 教諭
- 単元名：『総合福祉デザイン～自助具を製作しよう～』



8年生は、障害や病気などによる麻痺、加齢による身体機能の低下を補うための自助具を自分たちでデザインし発表しました。文化・言語・国籍を超えたユバーサルデザインを目指し、最後に3Dプリンターで作成しました。たくさん出された意見を参考に、今後さらに改良していく予定です。

### ◎ 後期課程知的学級（第7～9年生） 生活単元学習

- 授業者：福田 翔 教諭、筒井 美有 教諭
- 単元名：『「いただきます」からつながる世界』



特別支援学級7～9年生では、日本とスリランカの文化の違いについて学びました。「スリランカの学校は、10時におやつタイムがある。」という事実を知り、全員が「いいなあ!」とスリランカへのあこがれが増したようでした。

## 開会式

開会式では、全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会の齊藤仁副会長よりビデオメッセージが届きました。



合田 事務局長



野中 大会実行委員長



小松 北海道協議会会長



齊藤 全国協議会副会長



村松 大空学園校長



新山 十勝教育局局長



広瀬 帯広市教育長



稲葉 大会副実行委員長



笠松 大会副実行委員長

### 1 開式の言葉

十勝・帯広大会実行委員長

野中 利晃（帯広市立帯広小学校 校長）

### 2 挨拶

北海道国際理解教育研究協議会会長

小松 裕和（札幌市立中沼小学校 校長）

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会副会長

齊藤 仁

帯広市立大空学園義務教育学校校長

村松 正仁

### 3 祝辞

北海道教育庁十勝教育局局長

新山 知邦 様

帯広市教育委員会教育長

広瀬 容孝 様

### 4 来賓紹介

十勝・帯広大会副実行委員長

稲葉 珠樹（池田町立池田小学校 校長）

## 5 閉式の言葉

十勝・帯広大会副実行委員長

笠松真一郎（豊頃町立豊頃小学校 校長）

## 昼食・休憩

昼食は帯広名物「豚丼」を食べながら、大空学園吹奏楽部の迫力ある演奏を楽しみました。



## 全体会

全体会では、北海道、十勝、大空学園の基調提言・研究発表を行いました。関本研究部長の提言の中で、“東南アジアの車には暖房がついていない”という興味深いお話もありました。



関本 北海道研究部長



益子 十勝研究部長



竹内 大空学園研究部長

### 1 基調提言

北海道国際理解 教育研究協議会研究部長

関本 勝幸（札幌市立ノホロの丘小学校 教諭）

### 2 研究発表

十勝地区国際理解教育研究会研究部長

益子 忠行（音更町立鈴蘭小学校 教頭）

帯広市立 大空学園義務教育学校研究部長

竹内 允人

## 分科会

### ① 分科会A 第1学年 生活科「むかしからのあそびをたのしもう」



#### (1) 大空学園義務教育学校 1学年 松本 美佳 教諭

児童が日本の伝統的な遊びを学習した既習事項を活用し、世界の遊びとの類似点や相違点を主体的に見付ける活動の充実を図るため、時間配分を改善する必要がある。

output活動の充実を図るため、自国と他国と比較をするためのシンキングタイムの時間にゆとりを持たせる必要がある。

学校の実態を生かし、ケニア国籍の保護者から、他国の日常の紹介があったため、自国との文化の比較を身近に感じることができた。

遊びを通して、使っている言葉や道具を体験したため、その国を知ろうとする意欲の向上が図られた。

## (2) 大空学園義務教育学校 1学年 高畠 瑠衣 教諭

- 日本の伝統的な遊びを地域の方に教えてもらう活動を経験したため、外国籍の方々から遊びを学ぶことについても落ち着いて行動することができた。
- 外国の遊び全てを経験することができなかつたため、後日、グループ発表を通して、遊びのコツを知る活動を設定し、学びを深める必要がある。

## ② 分科会B 第4学年 総合的な学習の時間「世界のごみ問題を考えよう」

### 第5学年 総合的な学習の時間「大空学園SDGsはじめの一步」



## (1) 大空学園義務教育学校教諭 4学年 藤原 悠大 教諭

- 「水について」「ゴミについて」の二部構成からなる単元で授業を進めてきた。それぞれを4つのプロセスで構成した。
- 世界のごみ問題に触れる機会を作ることで、子ども達が今まで知らなかった事実を知り、その事から考えられる課題を自分なりに捉えて授業に臨む姿が見られた。
- 児童自身が調べる活動を経て、児童たちなりのアイデアを出した。今後はそれを国語科で学習した新聞等で発信し、学園の児童生徒に興味をもってもらえるように取り組んでいきたい。
- ICTを活用することで、表現の苦手な子も積極的に他者と協力しようとする姿が見られた。

## (2) 大空学園義務教育学校 5学年 西村 弦 教諭

- 5年生は中等部になり、教科担任制など生活に変化が多い学年なので学習の中で自己調整力の育成を図り、自分たちで考えて動く活動を多く取り入れた。最初はどう動けばいいかわからず難しさを感じていたため、個々の課題に取り組む前に全員で一つの課題について考える活動を通して課題への取り組み方をレクチャーした。
- 最初は教師への質問が多かったが、徐々にgoogleサイトなどを活用し、教師に聞かずに自分でできる工夫などが見られた。
- 「世界に対して『何ができるか』」を考え、創り上げること自体はひとつの理想と感じている。遠い存在を意識しながらも、自分の隣の人にできることをやっていくというスタンスが、人から人へとつながっていき、結果的に世界につながっている、という考え方で単元を進めてきた。「世界に対して」＝「外国に働きかける」だけではないのでは？という視点も検証していただきたい。

## (3) 大空学園義務教育学校 5学年 河瀬 結 教諭

【外国籍の児童の関わりについて】

- 5学年には、来日したばかりのエジプト国籍の児童が2名在籍している。児童は低学年の頃から様々な国の児童と関わってきた経験があるため、授業内で積極的に交流することができていた。日本語が不十分な場合は、大人も子供も翻訳サイトなどを用いて適宜支援することで抵抗なく授業に臨んでいた。

- 外国籍児童はラマダン（断食）やお祈りの時間など、生活様式も日本人児童とは異なる部分がある。日常から文化の違いなどを5年生児童は感じる場面が多い。
- 外国籍児童の個別指導は「国語」と「社会」を行っている。本単元では一緒に学習を進めた。

### ③ 分科会C 第7学年 理科「光による現象」

#### 第8学年 総合的な学習の時間「総合福祉デザイン～自助具を製作しよう～」



#### (1) 大空学園義務教育学校 7学年 増田 美次郎 教諭

- 理科で国際理解教育の授業を実践するにあたり、エネルギー分野・防災の内容があったが、前例が少なく、参考にさせていただき資料等も十分ではなかったため、今回は光の単元で国際理解教育の授業に挑戦した。
- 世界における虹の見え方という視点を入れて、国際理解の活動の観点を入れた授業にした。
- 生徒たちは普通の授業のように、意欲的に活動していた。
- 世界に対して何ができるかを考えさせることは、とても難しいと感じた。多くのアイデアやご意見をいただき、今後の授業改善につなげたい。

#### (2) 大空学園義務教育学校 8学年 上野 嗣弥 教諭

- 昨年度、パナソニック教育財団より助成いただいた3Dプリンタ7台を利用し、STEAM教育を主眼とした美術・技術・総合的な学習の時間を組み合わせた教科横断的な学習をめざしたものである。
- マルベリーという自助具専門業者と、訪問看護ステーションとコラボレーションして、自助具の制作を進めた。今年度は、さらに国語でのプレゼンテーションを含めて、教科横断的な学習にした。
- 指導案と発表形式を変更しているが、この後の「職場体験学習の発表」や「次年度の卒論」に向けたプレゼンテーションのために変更したものであり、ご理解いただきたい。

### ④ 分科会D 後期課程知的学級 第7～9学年 「いただきます」からつながる世界



#### (1) 大空学園義務教育学校 知的学級 福田 翔 教諭

- intake活動では、カードを比べる時間を十分に設定する時間を確保する必要があった。
- output活動では、スリランカと日本の文化の違いを見つける活動に意欲的に取り組む姿が見られるとともに、文化の違いに優劣をつけるのではなく理解することの大切さを学ぶことができた。
- outcome活動では、互いの国の習慣や文化を大切にするためには、受け入れ、理解することが重要であることを考えることができた。

- 互いの国を理解し、大切にするためには「何ができるか」などを話し合う場面では、個人思考をグループで共有し、話し合わせる支援を行う必要がある。
  - カレーライス作りでは、スリランカの人と意欲的に関わろうとする姿を見ることができた。
- (2) 大空学園義務教育学校 知的学級 筒井 美有 教諭
- いつもと違う環境の中で、生徒たちはとても緊張している様子だったが、よく考え、最後まで意欲的に取り組むことができていた。

## 閉会式

閉会式では、次期開催地である胆振地区国際理解教育研究会の高橋慎治会長から胆振・苫小牧の魅力と研究会の取組が紹介され、十勝・帯広からバトンを渡し研究大会を終えました。1年以上かけて準備してきた十勝・帯広大会。国際理解教育研究会会員や会場校である大空学園の先生方とのつながりが更に深まったことを実感できた達成感あふれる大会となりました。



牧 大会副実行委員長



野中 大会実行委員長



高橋 胆振地区会長



小室 大会副実行委員長



## 編集後記

会報第106号は、今年度行われた北海道国際理解教育研究大会 十勝・帯広大会を特集することとなり、大会広報部が作成することとなりました。

11年ぶりに十勝・帯広で開催された北海道国際理解教育研究大会は、コロナ禍が明けきらないことや遠方の方々にも参加していただきたいことからYouTubeライブ配信とのハイブリット開催としました。多くの方々に参加していただいた十勝・帯広大会は、達成感や充実感あふれるものとなりました。この大会の様子を余すところなく伝えたいという思いで作成していたら、いつも以上のページ数となってしまったことをお詫びいたします。改めてこの場を借りて、十勝・帯広大会に携わってくださったすべての皆様にお礼申し上げます。

十勝地区国際理解教育研究会 広報部 佐々木敦史（新得町立新得小学校）